



生徒会長 挨拶

生徒会長 東 哲士

第76代生徒会長に就任してから1年が経ちました。生徒会長になると志した1年前のことを思い出すと、これから長い一年が始まるということに対する覚悟とやり切れるか不安でいっぱいだったことを思い出しました。しかしながら生徒会長としての役割を終えた今、活動を振り返ってみますと本当に短くて私にとって貴重な1年間でした。生徒を初めとする多くの方々に支えていただき、生徒会の活動行くと同時にたくさん思い出を作らせていただきました。今は甲府工業の生徒会長になってよかったと心から思います。

今年は様々な行事の制限が前年度同様なくなり学園祭や球技大会など多くの生徒が楽しみにしている行事を最大限の形で開催できました。今年はコロナ明け2年目ということで制限され続けていた学校行事復活の土台となる年にしようと考えていました。私たちは入学したころから学校行事が制限された状態が続いていたため誰も本来の行事を経験したことがありません。そのような中でこれまでの学園祭を取り戻すということは、初めから行事を作り上げるようなものでした。もちろん過去の資料や先生方の経験談でイメージすることはできますが一度も経験していないということは行事を運営していくうえでとても難しい部分だったと感じます。そのような中で開催した学園祭でしたが、3年生中心とした多くの方々が盛り上げてくださり多くの生徒のが「楽しかった」と思ってもらえるような学園祭になったと思います。この学校だからこそ、この学校でなければできない盛り上がりを学校内に収まらず保護者の方々や他校の生徒、地域の方々に感じ

てもらえたのは大きな成果だったと考えております。生徒会としては楽しもうとしている生徒たちの期待に最大限にこたえることが私たちの使命だという気持ちを芯に持ち行事を全力で楽しんでくれる工業生の団結力と勇ましさに私たちが勇気をもらっていました。工業生ならではの部活やクラスでの根強い繋がりはじめ、生徒会長を引き継ぐ最後の日まで文句なく最後までともに生徒会を続けてくれた生徒会役員の皆さん、先生方や同窓会の方々などたくさんの方々に支えられたおかげもあり最高のものを作り上げられたと思います。そして生徒会もこの難しい運営を乗り越えたことで第76代生徒会の本部のメンバーはもちろん第77代生徒会の1,2年生もたくさんの財産を得ることができました。私たち共に運営を精一杯頑張ってくれた1,2年生には私たちを超える生徒会行事を作ってくれるポテンシャルとエネルギーがあると信じています。私たち3年生が先輩たちの活躍している姿を見て育ったように、生徒会に限らず1,2年生は3年生の素晴らしい部分を存分に吸収して年を追うたびに甲府工業が更なる進化と発展していくことを心より期待しております。

結びとなりますが、生徒会誌「五葉」を発行するにあたり、執筆にご協力頂いた多くの方々に心から感謝申し上げます。また、先生方、同窓会の皆様、保護者の皆様を始めとする甲府工業高校の全ての関係者の皆様の生徒会活動へのご協力に心から感謝申し上げます。今後も甲府工業高校生徒会が益々発展していくことを祈念し、第76代生徒会会長の挨拶とさせていただきます。



生徒会副会長 挨拶

生徒会副会長 今牧 獅音

皆さんこんにちは。第76代生徒会副会長を務めさせていただいた今牧獅音です。

本日、こうしてこの場で1年間の活動を振り返る機会をいただけたことに感謝いたします。まず初めに、この1年間、私たち生徒会を支え、活動を見守ってくださったすべての方々に心から感謝を申し上げます。先生方、保護者の皆様、そして甲府工業の生徒の皆さん、本当にありがとうございました。皆さんの支えがなければ、私たち生徒会の活動は成り立ちませんでした。

振り返ってみると、この1年間は挑戦と学びに満ちた日々でした。特に印象に残っているのは、様々な学校行事の企画や運営に携わった経験です。初めての経験だったこともあり、最初は簡単な司会の仕事でさえ思うように進められず、不安や戸惑いを抱える場面が多くありました。緊張で言葉が詰まってしまったり、進行が遅れて周囲に迷惑をかけてしまったりと、失敗を重ねるたびに自分の力不足を痛感しました。

しかし、そんな中でも力不足なりにやれることをやり切って、五葉祭や球技大会を仲間たちと一緒に作り上げることができました。特に印象に残っているのは、行事前の準備期間です。いまでも、夜遅くまで資料を作っていたことを思い出します。行事の本番でも、予定が思うように進まなくて焦ったり、みんなと意見がぶつかり合ったりすることもありましたが、それでも、やり始めれば終わると信じ、やりきることを目標に最後まで頑張りました。

生徒たちが笑顔で楽しんでいる姿を見たときには、「やってよかったな」って心から思いました。あの瞬間の達成感や、みんなで成し遂げたという感覚は、今でも忘れられません。大変なこともたくさんありましたが、こうやって振り返ると、生徒会としてこの役割を担えたことが本当に嬉しくて、誇らしく思います。もちろん、今でも「生徒会副会長として十分な役割を果たせなかったのでは」と感じることもあります。しかし、そんな私が最後まで副会長として活動できたのは、私と仲良く接してくれた仲間のおかげです。生徒会長、体育局長、学芸局長、そして後輩の皆さんと一緒に活動できたことは、私にとってかけがえのない経験となりました。本当に素晴らしい環境に恵まれていたのだと、今でも心から感じています。

この1年間の経験を通して、私は「1人ではできないことも、周りとの協力すれば必ず乗り越えられる」ということを学びました。この学びは私にとって大きな財産となり、これからの人生においても役立つと思います。

最後に、生徒会、そして私を支えてくれた東会長にもう一度心から感謝を申し上げます。正直、東会長がいなければ私はこうやって副会長としてこうして一年を振り返ることもなかったと思います。会長として生徒会を支えてくれて本当にありがとうございました。私事ですがこれから先も甲府工業がさらに発展し、素晴らしい学校であり続けることを祈念し、第76代生徒会副会長の挨拶とさせていただきます。



これからの時代を どう生きるか

校長 萱沼 恵光

2024年は、石川県能登地方を震度7の大地震が襲うという波乱の幕開けとなりました。一日にして街が変わり果て、住居もインフラも全てが奪われてしまったのです。テレビで報道される被災地は悲惨そのもので、希望をもって迎えた新年がまさかこのような形で早々に奪われることになるうとは。近年は、予期しない災害や出来事が多く発生しており、どこで何が起るか予測不能な時代です。だからこそ、どんなことも他人事と捉えず、世の中の急激な変化や危機に対応することのできる資質・能力を身に付けておくことが大変重要なことなのです。

夏にはパリ・オリンピックがありました。葦崎工業高校出身のレスリング文田選手を始め、柔道やスケートボード、体操など多くの種目で金メダルを獲得しました。選手が戦う姿はもちろん、どの選手にも、オリンピック出場に至るまで、メダル獲得に至るまでのストーリーがあり、それも含めてわれわれに大きな感動を与えてくれました。一方その裏では、SNSによる選手への誹謗中傷が後を絶ちませんでした。試合でミスをした選手を責める、侮辱や脅迫を繰り返すなど、匿名性をいいことに簡単にSNSに書き込んでしまう。これはオリンピックに限らず日常社会でも多く見られる光景です。誹謗中傷は言葉の「暴力」です。SNSも現実社会も同様の社会であると考えてアクションを起こすことが私たちには求められています。

そして、秋は何と言っても「大谷翔平」でしょう。前人未踏の記録を次から次へと打ち立てる彼の活躍はまさに

圧巻でした。彼は以前、こんなことを語っていました。

「自分で自信を持って言える唯一のポイントは、『好きなことに関して頑張れる才能』があること」

これは言い方を変えれば、「人が頑張るためには、とことん打ち込める何か好きなことを見つけること」だと思っています。実はこれが簡単なようでとっても難しいんですよね。

2024年を振り返ってみても実に様々な出来事がありました。おそらく皆さんの中でも、山あり谷あり、喜びや苦しみ、悩みなどを抱えながら毎日を送っていることでしょう。2学期は各部の活動はもとより、五葉祭やサッカー大会など、部活動や学校行事に打ち込む皆さんの姿を観させていただきましたが、競技や行事に一生懸命に臨まれている皆さんになんとも言えない感動を覚えました。高校の3年間で自分自身を見つけ、そして本当にとことん打ち込める好きなことを見つけ、揺るぎない自分自身の芯を本校で築いてくれることを期待しています。

能登の地震と同様に、これから皆さんが生きていく世界はあまりにも変化が激しく予測が困難な社会です。だからこそ変化や危機に対応することのできる力が必要なのです。これは、ただ何気なく生きていたのでは身に付けることができません。大事なものは、一流大学や大企業に入るのではなく今をどう過ごすかなのです。中学時代うまくいかなかった人、今が何となくうまくいっていない人も気にする必要はありません。なぜなら、これから先の人生の方が遙かに長いわけですから。変化の激しい時代に対応できるよう、常に考え向上心を持って取り組み、自身の生き方も柔軟に変化させながら社会と向き合っていくことが、より良い人生を切り拓いていくことに繋がっていくはずです。

AIをはじめとするデジタル社会は今後ますます変化していくことでしょう。SNS上で暴言を吐くようなデジタル社会の闇にはまる人間にはなってほしくはありません。「大谷翔平」は野球の才能で生きているわけではありません。努力という自身の才能を開花させて生きているのです。皆さんも、自分の好きなことにとことん取り組みひたすら打ち込める人生を送ることができるよう努力という才能を開花させてほしいと思います。



今年度を振り返って

生徒会主任 神宮司 啓太

本年度は、始業式・入学式で新年度が始まり、部活動紹介と応援歌唱練習と生徒会行事を行いました。1学年全生徒が体育館に集合し、応援団や吹奏楽部の2・3年生の協力のもと無事に甲府工業生の一員となることができました。

5月にはいり、山梨県高等学校総合体育大会が行われ、期間中は小瀬スポーツ公園に本部を構え、生徒会本部、応援団をはじめとして、文化部の生徒も各部の応援に参加してくれました。応援団は3日間早朝より、団旗を立て、各部の勝利を信じ応援してくれました。大会に参加した部は、自転車部、新体操部、相撲部、ボクシング部が優勝。バドミントン部・卓球部・バレーボール部が準優勝など沢山の部で得点を獲得しました。男子総合優勝奪還を目指しましたが、男子総合3位となりました。来年度にむけて学校全体で山梨県高等学校総合体育大会男子総合優勝奪還に向け1年間この思いを忘れず努力したいと思います。

総合体育大会の結果により、剣道部、柔道部(男子・女子)、陸上駅伝部、など12の部が関東大会に出場しました。

また全国総合体育大会には、自転車部、柔道部(相撲)、新体操部、卓球部、ボクシング部が予選を勝ち上がり山梨県代表として参加しました。

文化部の活動では放送委員会が全国大会出場、吹奏楽部が北関東大会出場、建築研究部は関東大

会ものづくりコンテスト出場など、多くの成果が上がりました。

今年度も学園祭で一般公開を行うことができました。日頃の学習の成果やイベント、模擬店等大勢の方に来校いただき開催することができました。昨年の経験を各生徒が活かし学園祭をどのように行っていくのか準備を進める姿が多くみられました。

日頃生徒会活動ができるのは保護者の方々や教職員、同窓会をはじめ多くの方々のご理解とご協力のおかげです。今後も変わらぬ思いで本校を見守っていただけることを心よりお願い申し上げます。そしてこれからも本校がより発展できるよう、生徒共々日々努力を重ねてまいりたいと思います。今後ともより一層のご支援ご協力をお願いいたします。

令和6年度 生徒会名簿

生徒会本部顧問	氏 名	部顧問	所 属
主顧問	神宮司 啓太	硬式テニス	建築科
副顧問	雨宮 敬将	ラグビー	体育科

生徒会分掌

主 任	神宮司 啓太	硬式テニス	建築科
副主任	雨宮 敬将	ラグビー	体育科
顧 問	平崎 雄也	自転車	社会科
	市川 万貴	新体操・放送	理科
	内藤 大輔	剣道	体育科
	高橋 透	弓道	機械科
	大曾根 秀勝	陸上駅伝	電気科
	王 大地	卓球	建築科